

松井先生を偲んで

宮越武夫

098-0475 士別市多寄町32線西5号、多寄白鳥を守る会

「はあい松井です」、電話口のあの声が今でも私の耳に焼きついて離れません。私と先生のお付き合いは、平成2年2月のことでした。多寄公民館が当時日本白鳥の会の会長だった松井先生をお招きしてハクチョウの講演を実施することになり、先生には快く引き受けていただきました。ハクチョウの生態や渡りの行動等について、とても分かりやすく講演していただいたのが始まりと記憶しております。

それ以来地域の人たちも一段と関心をもってハクチョウに接するようになり、平成の初め頃は、春にしか立ち寄りなかったハクチョウが、次第に増え続け、平成5年頃からは秋にも逗留するようになり、春は3月初め頃から5月の節句頃まで、秋は10月半ばから11月下旬まで見られます。現在は、4月の20日頃には3500～3600羽ぐらい、11月半ば頃には2500～2600羽ぐらいが逗留して、一年の三分の一は多寄で過ごすようになりました。

昭和48年頃、5～6羽で、とても珍しかった事を考えると、えらく増えたものと驚いています。今はこの飛来地も多寄「白鳥の宿」と名称がつき、春・秋のシーズンには、大勢の見物客と地域の人達のやすらぎの場になっております。

このことは、日頃陰に陽に常に私共に御指導下さった松井先生のハクチョウに対する愛情の賜とっております。

先生はとても気がやさしく親切で、私のような田舎者にも気軽に声をかけて下さり、お陰さまで、日高の静内での研修会に始まり、宮城県の大河原町、稚内、浜頓別のクッチャロ湖等での研修会、さらに平成7年5月の連休には、ロシアと日本との親善航路第一号として小樽港からサハリン7号に乗船、日本白鳥の会の会員23名の一人として参加させていただき、大勢の先生方と行動を共にさせていただいたことは、私には何物にも替えがたい体験となりました。大泊(コルサコフ)に着いた時に、松井先生が船べりで藤巻先生の奥様と私が海面を眺めているところを写したスナップ写真の引き伸ばしたのを送っていただき、大切にしております。

平成10年5月初めにまだハクチョウが我が家の近くに残っていたので、先生にお電話したところ、札幌からカメラを背負ってはるばる来てくださり、楽しそうにシャッターをきっておられました。家内の俄造りの昼食をうまいうまいと食べられました。一寝入りしてから近くの日向温泉に案内して温泉につかりハクチョウ談議をしたことが、ついこの間のような気がします。もう一度日向温泉にお招きして、お湯につかりながらハクチョウ談議を目論んでおりましたが、急にお亡くなりなり、残念でなりません。

札幌厚生年金会館で、先生の「白い恋人たち」シベリアの使者の写真展発表の折も、

お招きいただき、大勢の先生方の集まりに驚きました。また夜にはホテルまでお手配され、あの気配りには本当に言葉に表せないほど先生の温情に感銘いたしました。

ここに謹んでお世話になったことに対しお礼を申し上げ、安らかにお眠り下さるよう心からお祈り申し上げます。

私も大正10年生まれで、そろそろお迎えがくる齢になりました。今後何年できるかわかりませんが、健康に留意して、体力の続く限り春・秋はもとより、12～13年前から天塩川で越冬を続けているオオハクチョウの給餌と観察を続けるつもりです。大吹雪でない日には毎日リュックサックに餌を入れ片道2km余りの雪の中をスキーで往復するのが私の日課です。